

## 目次

1	はじめに	2
1.1	アドインの機能	2
1.2	全体メニューのショートカット	2
1.3	このアドインで解決できること	3
2	各機能の説明	4
2.1	行の高さ自動調整機能	4
2.1.1	文がセルの行の高さの限界値を超えた場合の処理	5
2.1.2	シート全体への実行	6
2.1.3	ショートカットキー	6
2.1.4	ステータスの表示	6
2.1.5	非表示行に対する対応	6
2.1.6	非表示列に対する対応	6
2.1.7	セル末改行数変更	7
2.1.8	ご自身の VBA で行の高さ自動調整機能を使用したい方のために	8
2.2	行の高さ自動調整機能(全シート)	9
2.3	列の幅自動調整機能	10
2.4	非表示セルの最適化機能	11
2.5	スペルと文章のチェック機能	12
2.5.1	機能制限	12
2.5.2	実行によるオプション設定の変更	12
2.5.3	チェック結果の例	13
2.5.3.1	「全文表示」の場合	13
2.5.3.2	「指摘のみ表示」の場合	13
2.5.4	結果の保存場所の選択	14
2.5.5	文書のスタイルの選択	14
3	アドインの設定	15
3.1	手順 1:アドインファイルのブロックを解除	15
3.2	手順 2:アドインをアドインフォルダへコピー	15
3.3	手順 3:アドインの指定(Excel2010 の場合)	16
3.4	その他:アドインの設定解除	17
4	動作環境	17
5	使用条件	17
6	免責	18
7	連絡先	18
8	履歴	19

## 1 はじめに

2016/7に更新されたWindowsUpdateによりアドインファイルのブロックを解除しないと使用できなくなりました。このため、ファイルのプロパティにてブロックを解除してご使用ください。リンク→[設定方法はコチラをご覧ください](#)

### 1.1 アドインの機能

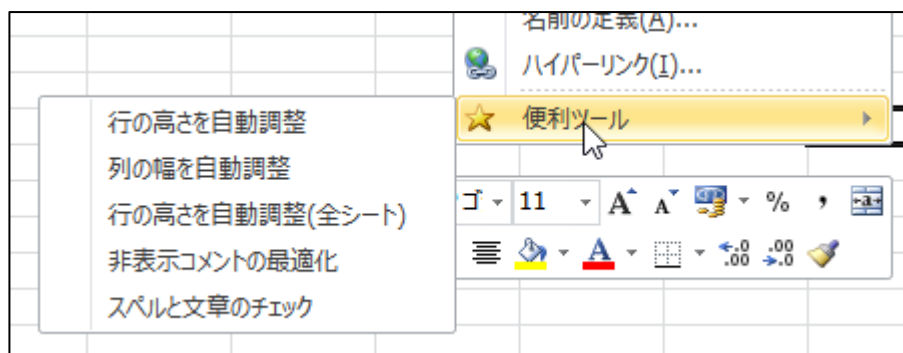
このプログラムは、Microsoft Excel 用のアドインです。本アドインには下記5つの機能があります。

- 行の高さ自動調整機能
  - 選択しているセルの行に対して結合セルを含めた高さの自動調整(調節)を行います。  
「表示用」と「印刷用」の2種類を用意しており、「表示用」は画面で見る時のセル行の高さに自動調整し、「印刷用」は印刷時の最適なセル行の高さに自動調整します。
- 行の高さ自動調整機能(全シート)
  - 選択している1ブックの全シートに対して行の高さの自動調整を一括で行います。
- セル末改行数変更機能 (この機能は「行の高さ自動調整」を選択した際に選択できます)
  - 選択中のセルに対して、各セルの文末の改行数を変更します。(減らすことも可能です)
- 列の幅自動調整機能
  - 選択しているセルの列に対して結合セルを含めた幅の自動調整(調節)を行います。  
「数字セルのみ」と「全て」の2種類を用意しており、「数字セルのみ」は数字のセルに対してのみ幅の調整を行い、「全て」は全てのセルに対して幅の自動調整を行います。
- 非表示のコメント最適化機能
  - 選択中のシートの非表示コメントのサイズと位置を自動調整します。横幅のサイズは固定幅にしています。
- スペルと文章のチェック機能

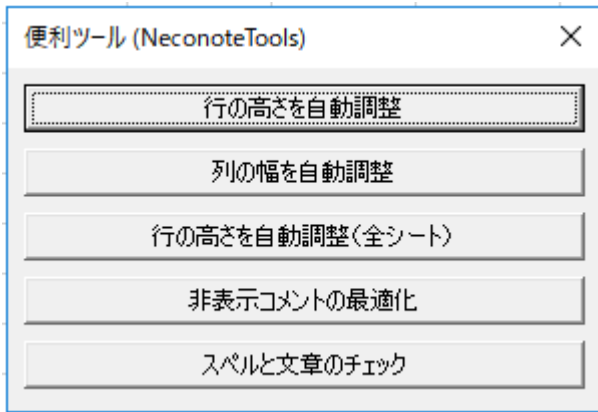
Microsoft Word の「スペルチェックと文章校正」の機能を使用して Excel ブック全体のスペルと文章のチェックを行い、チェック結果の一覧を Word ファイルでデスクトップに保存します。結果の表示には「全文表示」と「指摘のみ表示」の2種類を用意しています。

### 1.2 全体メニューのショートカット

アドインを設定すると、ショートカットメニュー(右クリックメニュー)に「便利ツール」が追加されます。「便利ツール」にカーソルを合わせると、さらにショートカットが表示され、左クリックで選択することで各機能を実行できます。



「Ctrl + Alt + n」を押すと全体のショートカットが表示されます。



### 1.3 このアドインで解決できること

#### 結合セルの幅自動調整が行われない問題

Excel は結合セルになったセルに対して一切幅の自動調整を行いません。これによって、結合セルにしたセルは人が一つ一つ手で調整を行うこととなります。手で行うために幅はバラつき、また表示すべき部分が表示されていないというミスが発生します。

→この問題は、高さのみですが「[行の高さ調整機能](#)」で解決できます。

#### 表示時には表示されている文字が印刷時に表示されない問題

PC の画面では表示されている文末が、印刷時には切れて見えなくなっていることが多くあります。印刷するだけでなく PDF ファイルに変換した場合でも同様の問題が発生します。

→この問題は、「[行の高さ調整機能](#)」で解決できます。

#### 非表示コメントの位置やサイズがいつの間にか変わってしまう問題

非表示コメントは文書を作成しているといつの間にかそのサイズや位置が意図していないサイズに変化し、意図していない場所に移動しています。

→この問題は、「[非表示のコメント最適化機能](#)」で解決できます。

#### Excel の文章チェック機能がスペルチェックのみである問題

Excel は日本語の文章チェックがなく、かつ図形内の文章をチェックしてくれません。

→この問題は、「[スペルと文章のチェック機能](#)」で解決できます。

Microsoft Word (以後、Word と表現します) の「[スペルチェックと文章校正](#)」の機能を使うため、Word と同等の確認ができます。ただし、修正実行までは今のところサポートしていません。また、表記のゆれは、チェック結果を全文表示で行い、Word 標準校閲機能の「[表記のゆれチェック](#)」を使用して確認してください。

次章でアドインの詳細な使い方について説明します。

ひとまず設定してみて使ってみたいという方は、「[3 アドインの設定](#)」へお進みください。

## 2 各機能の説明

### 2.1 行の高さ自動調整機能

自動調整したい行のセル、もしくは行を選択した状態で、ショートカットメニューの「行の高さを自動調整」を選択すると、選択中のセルで指定された行に対して、結合セルを含めた行の高さの自動調整を行います。(選択するセルはどの列のセルでもかまいません。)

※Ver1.5 から行番号選択によっても実行できるようになりました。

行の高さの自動調整には「表示用」「印刷用」の2種類を用意しています。

「表示用」を実行した場合

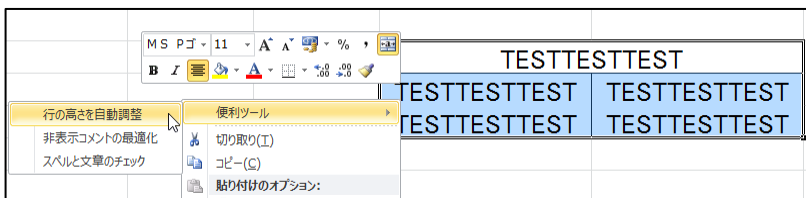
PC 上で表示を行う場合の最適な行の高さに自動調整します。印刷の必要がなく PC 上で表示させたい場合に適しています。

「印刷用」を実行した場合

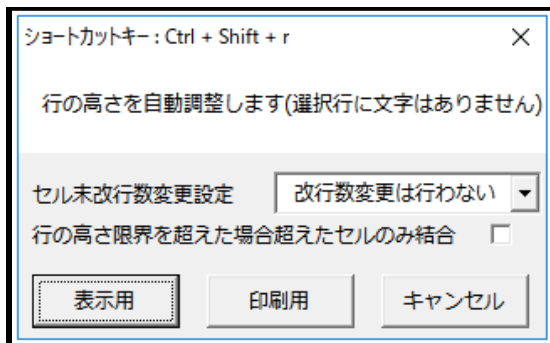
印刷での最適な行の高さに自動調整します。各セルの文末まで表示して印刷したい場合に適しています。なお、1セル内に複数のフォントが指定されていた場合は高さは少し大きめに調整します。

※一時作業ファイルとして「VBA マクロ一時作業用【残っていたら削除してください】」という名前を使用するため、同名のシートがあるとそのシートを削除してしまいます。このため、同名のシートは作成しないでください。

※VBA であるため戻る操作(Ctrl+Z)を行うことができませんので注意してください。

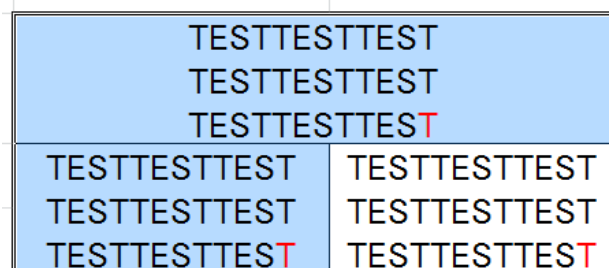


上記の選択されているセルは結合セルですが、本アドインを使用することで適切な行の高さに調整可能です。



行の高さのみ調整する場合は「改行数変更は行わない」の状態で行ってください。

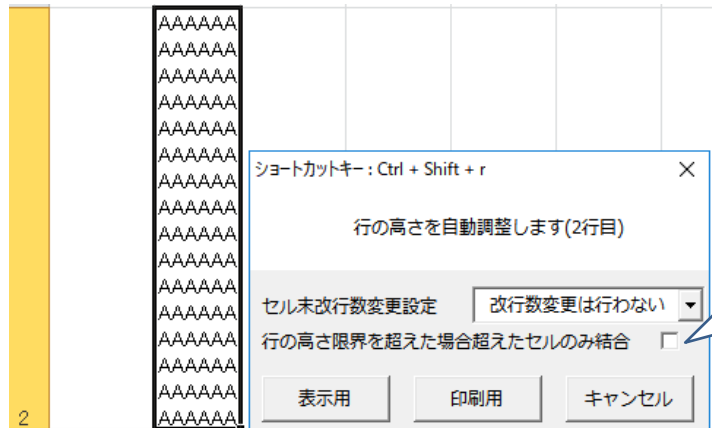
セル未改行数変更設定に関しては「[2.1.7 セル未改行数変更](#)」で説明します。



### 2.1.1 文がセルの行の高さの限界値を超えた場合の処理

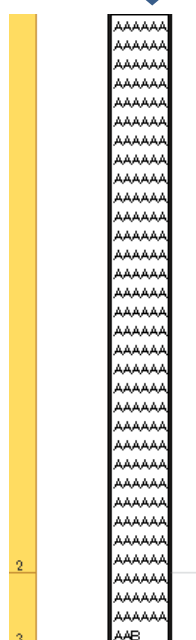
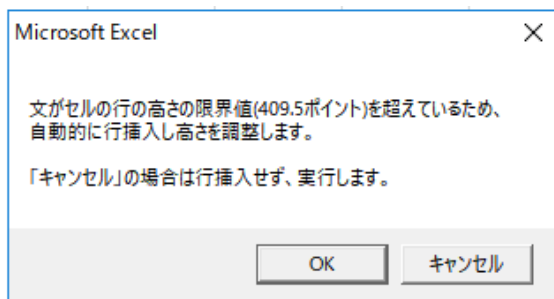
「結合セルを含めた行の高さ自動調整機能」は、文がセルの行の高さの限界値(409.5ポイント)を超えている場合に、行を追加し自動調整します。

文がセルの行の高さの限界値(409.5ポイント)を超えている場合、メッセージボックスを表示し、行挿入処理を行って良い場合(「OK」の場合)は、行を挿入して高さを自動調整します。「キャンセル」の場合は行を挿入せずに高さを自動調整します。行を挿入した際は、挿入した行のセルとその一つ上のセルを自動的に結合します。このメッセージボックスは実行時に1回のみ表示し、以後はメッセージボックスで選択された処理を他の高さが1行の限界値を超えたセルに対しても行います。



「行の高さ限界を超えた場合超えたセルのみ結合」を ON した状態で実行すると、行の高さ限界を超えたセルのみ結合し、それ以外は結合しないように動作します。

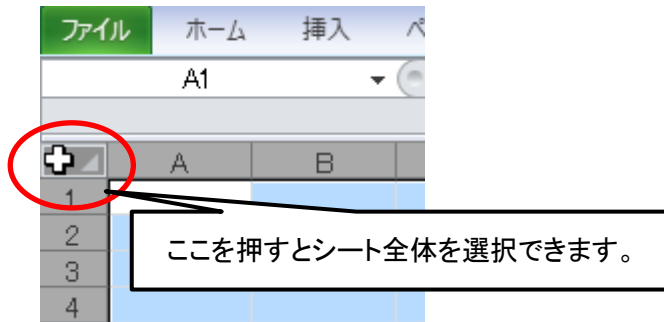
←文が行の高さの限界値を超えている状態。



### 2.1.2 シート全体への実行

シート全体に対して高さの自動調整を行う場合は、シートの一番左上(下図参照)をクリックした後、右クリックでショートカットメニューを表示し「行の高さを自動調整」を実行してください。

実行は「1行目」から「記載されているデータがある最終行」に対して行います。そのため、記載範囲が巨大でない限り実行時間はそれほどかかりません。



### 2.1.3 ショートカットキー

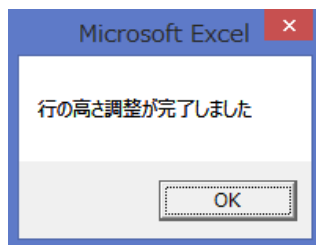
「Ctrl + Shift + r」を押すと行の高さ自動調整の画面が表示されます。

### 2.1.4 ステータスの表示

現在の処理状況は、Excel ウィンドウの左下にあるバーに表示されます。



処理完了時には、下記のメッセージボックスを表示します。



### 2.1.5 非表示行に対する対応

Excel標準の行の高さ自動調整機能を非表示行に対して実行すると、非表示が解除されてしまい、再度非表示に手で戻す手間が発生します。この問題を解決するため、本アドインでは、行の高さ自動調整を行った後で実行前に非表示だった行を非表示に戻します。

### 2.1.6 非表示列に対する対応

非表示列のセルに対しては、「表示用」「印刷用」のどちらも Excel 標準の行の高さ自動調整のみ行います。

## 2.1.7 セル末改行数変更

選択中の一番左上のセルと一番右下のセルで囲まれた範囲のセルに対して、各セルの文末の改行数を変更します。例えば、3行の改行を追加した後、0行に戻すことができます。

セル末改行数変更機能は、「セル末改行数変更設定」のコンボボックスの選択を「改行数を〇に変更」に設定し、「表示用」もしくは「印刷用」を押すことで実行されます。この時、行の高さ自動調整も同時に行われます。この機能により、一括で改行を変更することができ、表の見やすさが向上します。

※処理を実行したセルの文字が各セルの共通フォント書式が統一されますのでご注意ください

※空セルに対しては改行処理を行いません。

※数式のセルに対しては改行処理を行いません。

※VBA であるため戻る操作(Ctrl+Z)を行うことができませんので注意してください。

行の高さ自動調整

行の高さを自動調整します(6~8行目)

セル末改行数変更設定 改行数を 1 に変更

表示用 印刷用 キャンセル

改行数変更は行わない  
改行数を 0 に変更  
改行数を 1 に変更  
改行数を 2 に変更  
改行数を 3 に変更  
改行処理は行わない

確認

行数変更処理を実行した場合、選択中のセルの文字の書式は各セルの共通フォント書式に統一されます。処理を行いますか？

はい(Y) いいえ(N)

↑「はい」で実行、「いいえ」で終了します。

Microsoft Excel

行の高さ調整が完了しました

OK

TEST	TEST	TEST
TEST	TEST	TEST
TEST	TEST	TEST

↑各セルの文末の改行数が1に変更されました。

## 2.1.8 ご自身の VBA で行の高さ自動調整機能を使用したい方のために

ご自身の VBA で行の高さ自動調整機能を使用したいという方のためにメッセージを表示しない関数を用意致しました。「便利ツール集(NeconoteTools).xlam」アドインを設定した状態で VBA に下記の記述を記載すると選択している行に対してメッセージ表示なしの行の高さ調整マクロを実行することができます。

なお、セルの行高さ限界値(409.5 ポイント)の場合の行挿入の機能は無効にしています。

また、シートの保護がかかっているシートに対しては高さ調整はできません。

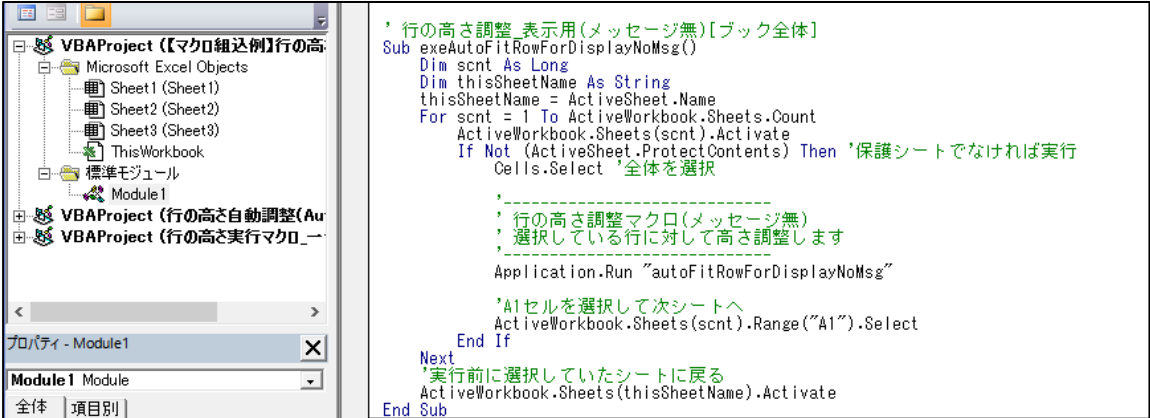
### ■表示用

Application.Run "autoFitRowForDisplayNoMsg"

### ■印刷用

Application.Run "autoFitRowForPrintNoMsg"

下記は、メッセージを表示しない行の高さ自動調整を選択ブック全体に対して行う場合の記述例です。



The screenshot shows the VBA editor interface. On the left, the Project Explorer displays a VBAProject with three sheets (Sheet1, Sheet2, Sheet3) and a ThisWorkbook object. The Properties window shows 'Module1' selected. The main window displays the following VBA code:

```
' 行の高さ調整 表示用(メッセージ無)[ブック全体]
Sub exeAutoFitRowForDisplayNoMsg()
    Dim scnt As Long
    Dim thisSheetName As String
    thisSheetName = ActiveSheet.Name
    For scnt = 1 To ActiveWorkbook.Sheets.Count
        ActiveWorkbook.Sheets(scnt).Activate
        If Not (ActiveSheet.ProtectContents) Then '保護シートでなければ実行
            Cells.Select '全体を選択

            '-----
            ' 行の高さ調整マクロ(メッセージ無)
            ' 選択している行に対して高さ調整します
            Application.Run "autoFitRowForDisplayNoMsg"

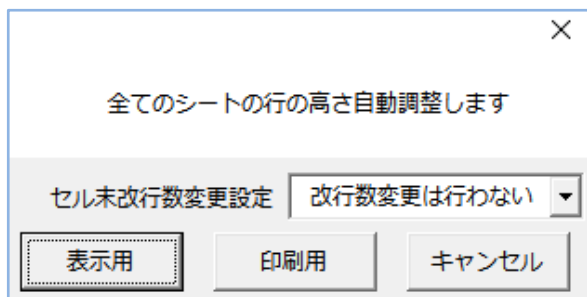
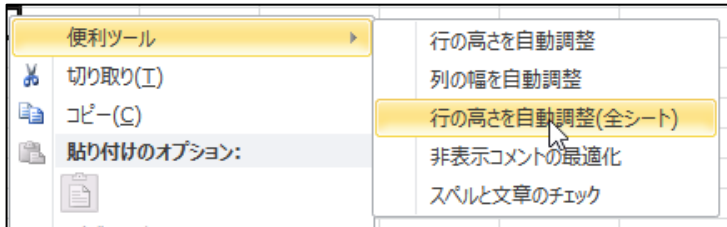
            'A1セルを選択して次シートへ
            ActiveWorkbook.Sheets(scnt).Range("A1").Select
        End If
    Next
    '実行前に選択していたシートに戻る
    ActiveWorkbook.Sheets(thisSheetName).Activate
End Sub
```



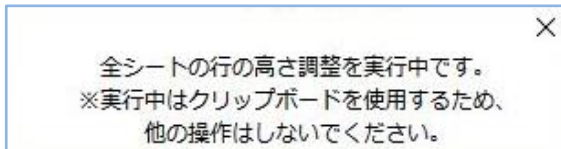
## 2.2 行の高さ自動調整機能(全シート)

選択している 1 ブックの全シートに対して行の高さの自動調整を実行します。「行の高さ自動調整機能」と同様、「表示用」「印刷用」の選択、セル末改行変更設定が行えます。

注: 図形に記載された文字列に関係なくセルに記載された文字列をもとに行の高さ調整するため、行の高さ調整後に図形の縦サイズが変わって図形内の文字列が見えなくなっていないか確認してください。



実行中は Excel ウィンドウの左下にあるバーに進捗を表示するとともに下記のメッセージボックスを表示します。



### 2.3 列の幅自動調整機能

自動調整したい列のセル、もしくは列を選択した状態で、ショートカットメニューの「列の幅を自動調整」を選択すると、選択中のセルで指定された列に対して、結合セルを含めた列の幅の自動調整を行います。(セルを選択して実行する場合どの行のセルを選択かまいません)

※列番号選択によっても実行できます。

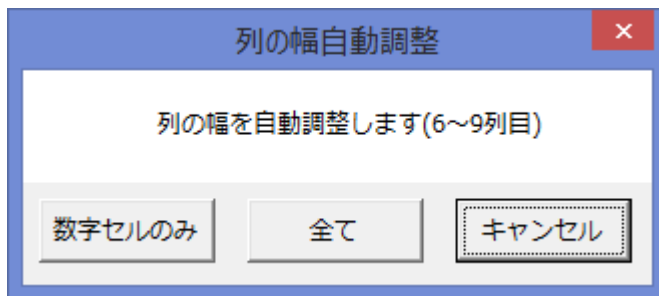
列の幅の自動調整には「数字セルのみ」「全て」の2種類を用意しています。

「数字セルのみ」を実行した場合

数字のセルが「###」となっている場合などに使います。数字セルに対してのみ幅を調整し、数字全体が表示されるようにします。

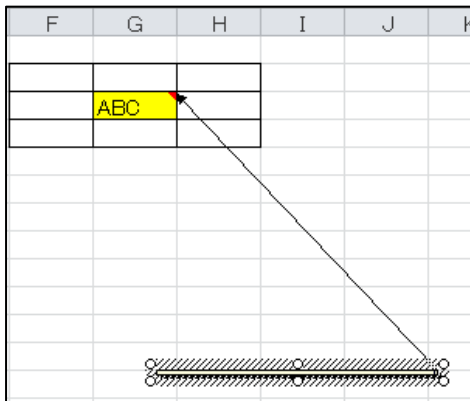
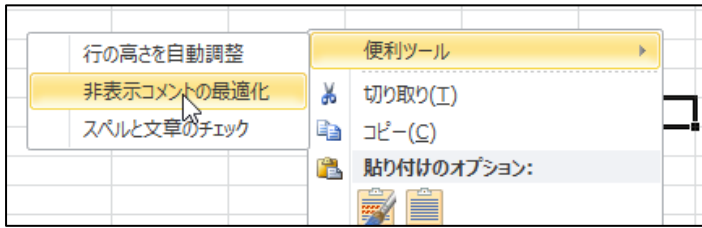
「全て」を実行した場合

全てのセルに対して幅を自動調整します。なお、幅の最大値は 250 ピクセルとしています。

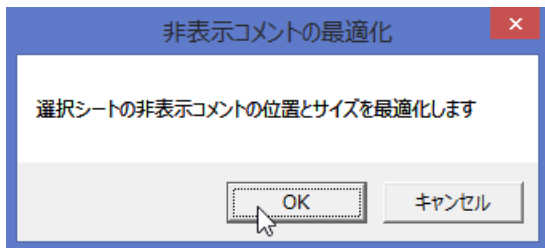


## 2.4 非表示セルの最適化機能

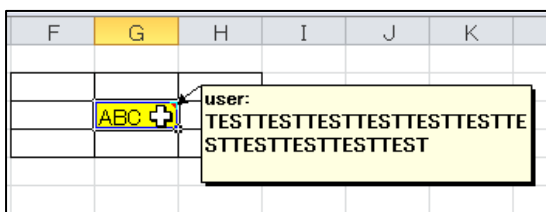
ショートカットメニューの「非表示コメントの最適化」を左クリックすることで、選択中のシートの非表示セルのサイズと位置の最適化が実行されます。なお、横幅は固定幅となっています。



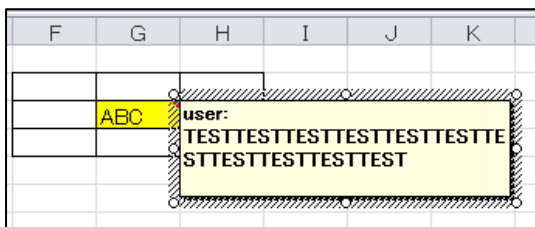
Excel で非表示コメントを編集しようとする  
と左図のように幅が薄く、位置も当初と全  
く違う場所に飛んでいることがあります。  
(信じ難いですが頻発する現象です)



そこで、「非表示コメントの最適化」を  
実行します。



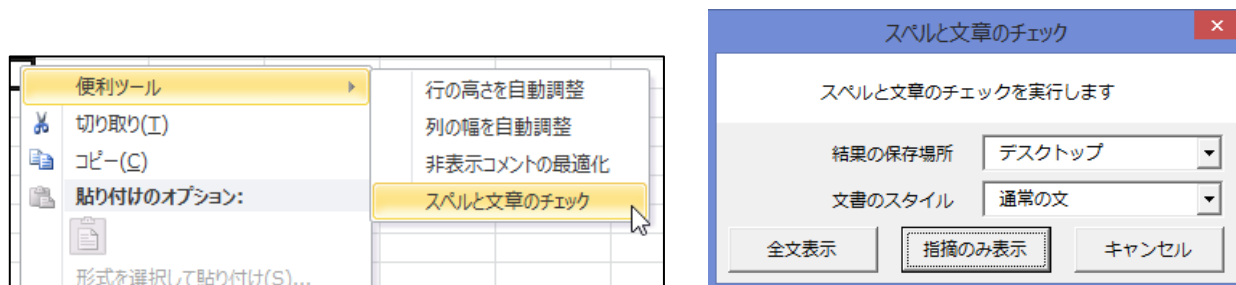
サイズが調整され、文字が全て表示  
されているようになります。



コメントの位置が調整され、編集時は  
コメントを付けたセルの右側に移動し  
ています

## 2.5 スペルと文章のチェック機能

スペルと文章のチェック機能は、ショートカットメニューの 2「スペルと文章のチェック」を左クリックすることで実行できます。Excel から Word の「スペルチェックと文章校正」機能呼び出し、チェック結果を Word ファイルで表示します。選択している Excel ファイルのブック全体に対して、スペルと文章のチェックを行い、Word ファイルにてチェック結果の一覧表を表示します。結果の表示には「全文表示」と「指摘のみ表示」の 2 種類を用意しています。また、結果の保存場所の選択、および文書のスタイルの選択ができます。



### 2.5.1 機能制限

「スペルと文章のチェック」機能には現段階では、下記の 2 点の機能制限があります。

※表記のゆれチェックはできません

ただし、「表記のゆれチェック」は実行されません。もし「表記のゆれチェック」も行いたい場合は、「全文表示」で出力された一覧表に対して、Word の標準機能である「表記のゆれチェック」を行って確認してください。

※[Office2013 以前] 日本語誤字の指摘は 一文(句点(マル)で区切られた文)に1つのみです。

日本語誤字の指摘は、一文に複数ある場合にも1つ目の指摘しか行いません。ただし、指摘のある文は必ずチェック結果に出力されるため、その文に対するその他の指摘内容は Word の文章校正機能を使用し、確認してください。なお、スペルチェックに関しては漏れなく指摘します。

※[Office2016 以降] 日本語誤字の指摘は「日本語誤字あり[左記参照]」のみ表示されます。

Office2016 になって Microsoft Word の仕様が変わり詳細情報を取得できなくなったため、Excel2016 では日本語誤字がある箇所は「日本語誤字あり[左記参照]」のみ表示するようになりました。

MS Office の Update により Excel2016 でも日本語の指摘内容も表示されるようになりました。

### 2.5.2 実行によるオプション設定の変更

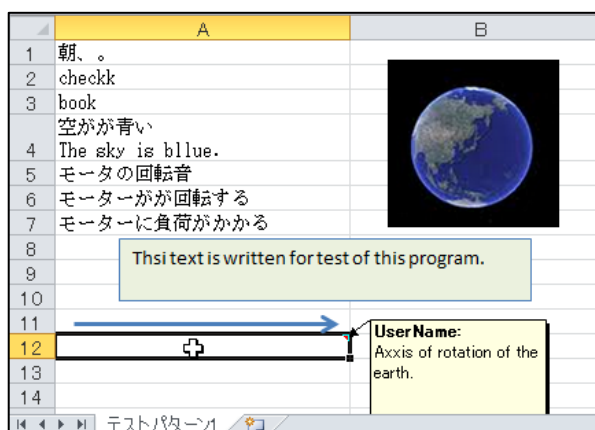
チェック結果の Word ファイルを開いた時に指摘箇所が見えるようにするために、「スペルと文章のチェック」機能を実行した際に下記 2 点の Word の文章校正のオプション設定を変更します。

※「入力時にスペルチェックを行う」を ON に設定します。

※「文書のスタイル」を本アドインで指定した文書スタイルに設定します。

## 2.5.3 チェック結果の例

下記の Excel ファイルの記載に対して「スペルと文書のチェック」を実行した結果を示します。



### 2.5.3.1 「全文表示」の場合

スペルチェックや文章の指摘がある箇所は白塗り、何も指摘がない箇所は灰色になります。

「位置」列はハイパーリンクになっていて、Ctrl ボタンを押しながら左クリックするとファイルの記載されている場所へ飛ぶことができます。表記のゆれチェックはサポートしていません。このため、灰色の部分であっても Word の標準のチェック機能によって”モータ、モーター”の部分に緑の波線が出ています。なお、コメントのユーザー名はチェック対象に含めていません。

スペルと文章のチェック結果 (対象ファイル: テストパターン.xlsx) .doc

位置	タイプ	原文	指摘
<a href="#">テストパターン 1!A1</a>	セル	朝、。	句読点の連続、
<a href="#">テストパターン 1!A2</a>	セル	checkk	スペルミス? check
<a href="#">テストパターン 1!A3</a>	セル	book	
<a href="#">テストパターン 1!A4</a>	セル	空がが青い The sky is blblue.	入力ミス? 空が青い スペルミス? blue
<a href="#">テストパターン 1!A5</a>	セル	モーターの回転音	
<a href="#">テストパターン 1!A6</a>	セル	モーターがが回転する	入力ミス? モーターが回 転
<a href="#">テストパターン 1!A7</a>	セル	モーターに負荷がかかる	
<a href="#">テストパターン 1!A8</a>	図形	Thsi text is written for test of this program.	スペルミス? This
<a href="#">テストパターン 1!A12</a>	コメント	UserName: Axxis of rotation of the earth.	スペルミス? Axis

### 2.5.3.2 「指摘のみ表示」の場合

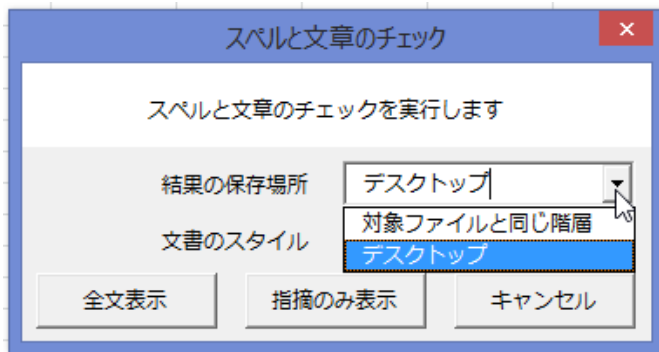
スペルチェックや文章の指摘がある箇所のみを抽出して表示します。

スペルと文章のチェック結果 (対象ファイル: テストパターン.xlsx) .doc

位置	タイプ	原文	指摘
<a href="#">テストパターン 1!A1</a>	セル	朝、。	句読点の連続、
<a href="#">テストパターン 1!A2</a>	セル	checkk	スペルミス? check
<a href="#">テストパターン 1!A4</a>	セル	空がが青い The sky is blblue.	入力ミス? 空が青い スペルミス? blue
<a href="#">テストパターン 1!A6</a>	セル	モーターがが回転する	入力ミス? モーターが回 転
<a href="#">テストパターン 1!A8</a>	図形	Thsi text is written for test of this program.	スペルミス? This
<a href="#">テストパターン 1!A12</a>	コメント	UserName: Axxis of rotation of the earth.	スペルミス? Axis

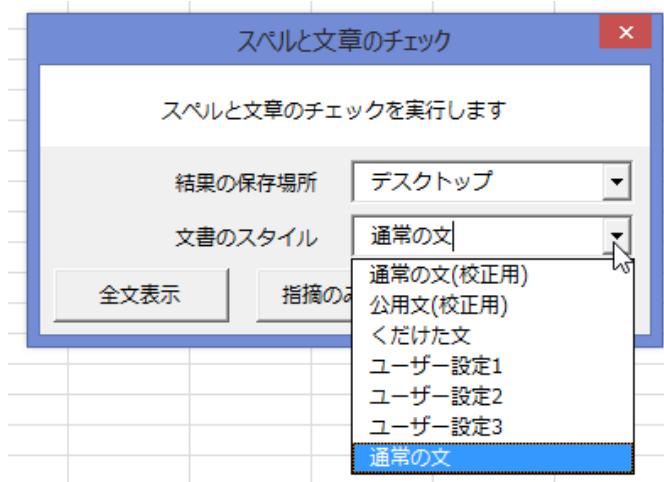
## 2.5.4 結果の保存場所の選択

チェック結果のファイルを保存する場所として「デスクトップ」、「対象ファイルと同じ階層」を選択できます。



## 2.5.5 文書のスタイルの選択

Word では文書校正オプションにて「文書のスタイル」を選択することでレベルを調整することができます。本アドインでも、文書校正オプションにて「文書のスタイル」を選択することができ、設定されたスタイルに合わせて文章のチェックを行います。各文書スタイルの詳細設定は、Word の文書校正オプションにて設定してください。



### 3 アドインの設定

アドインの設定方法は、google 等の検索サイトで「Excel アドインの使い方」などと検索していただくと丁寧な説明が記載されたサイトが出てくるため、そちらを読んでから手順1へ進むとスムーズに設定できると思います。

#### 3.1 手順 1:アドインファイルのブロックを解除

※2016年7月頃の Windows Update によりインターネットから取得した Excel アドインはブロック解除しないと使えないようになっています。このため、Excelアドイン(便利ツール集(NeconoteTools).xlam)のプロパティ画面を開いてブロック解除を行ってください。これにより使用できるようになります。  
(ファイルを右クリックして、プロパティを選択すると下記プロパティ画面になります。)



#### 3.2 手順 2:アドインをアドインフォルダへコピー

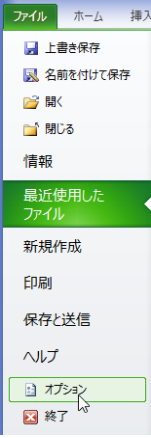
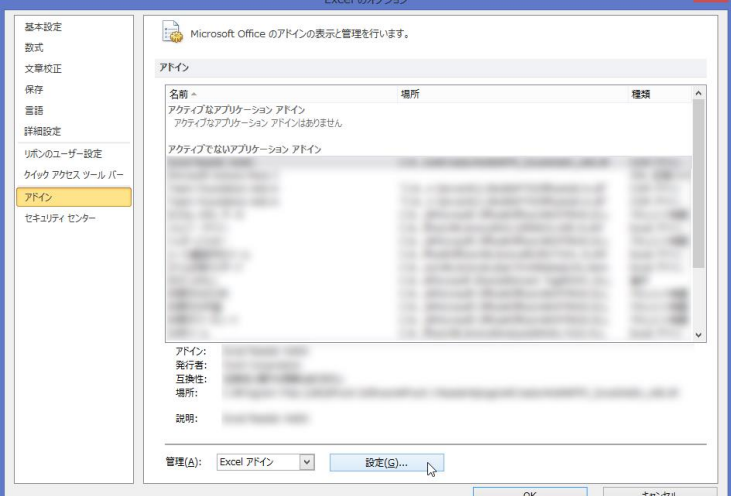
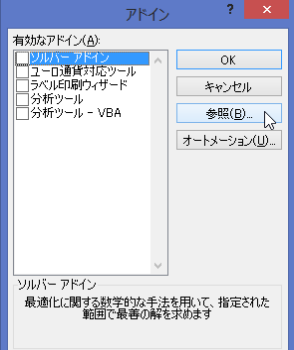
C:¥Users¥【ユーザー名】¥AppData¥Roaming¥Microsoft¥AddIns (【ユーザー名】はユーザーによって異なります) にエクセルのアドインを保存する場所があるため、そこに本アドイン(便利ツール集(NeconoteTools).xlam)を保存してください。

※アドイン設定時に上記 AddIns フォルダを開くため、その時に本アドインを保存すると簡単に保存できます。

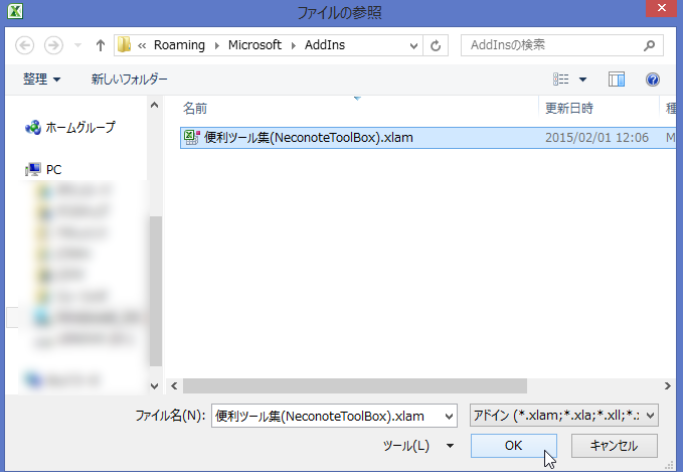
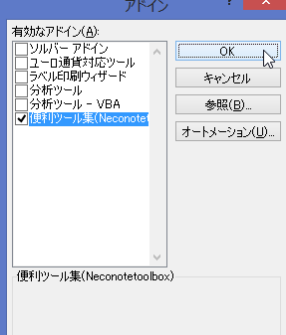
なお、Excel97~2003 の方は「Excel97~2003 用(xla ファイル)」フォルダの中に、Excel97~003 用のアドインを用意しておりますのでそちらをご使用ください。

※Excel2013 では AddIns フォルダに保存しないと動作しないようでした。このため、アドインは、上記の AddIns フォルダに保存してください。またアドインは実行時に毎回読み出すため設定後もアドインファイルは同じ場所に保管してください。

### 3.3 手順 3:アドインの指定(Excel2010 の場合)

<p>(1)Excel 画面にて[ファイル]ツールバー → オプションを押し、Excel のオプションダイアログを開きます。</p>	
<p>(2)[Excel のオプション]ダイアログボックスの左ペインで、[アドイン]をクリックします。</p> <p>(3)ダイアログボックス下の[管理]リストボックスが「Excel アドイン」になっているのを確認して、[設定]ボタンをクリックします。</p>	
<p>(4)実行すると[アドイン]ダイアログボックスが表示されます。</p> <p>(5)[参照]ボタンをクリックします。実行すると[ファイルの参照]ダイアログボックスが表示されず。</p>	



<p>(6)先ほど手順1で保存したアドインを指定してください。</p> <p>この時に本アドインを AddIns フォルダに保存する(貼り付ける)と簡単に保存できます。</p>	
<p>(7)[アドイン]ダイアログボックスに本アドインが追加されたため、OK を押してください。</p> <p>これで設定完了です。</p> <p>本アドインは Excel 起動時に読み出すようになっているため、Excel を再起動してください。</p>	

### 3.4 その他:アドインの設定解除

- (1)[アドイン]ダイアログボックスで『便利ツール集(NeconoteTools)』のチェックボックスをオフにします。
- (2)アドインの実体(便利ツール集(NeconoteTools).xlam)が保存されているフォルダを開き、アドインの実体(xlam ファイル)を別のフォルダに移動、または削除します。
- (3)アドインの実体(xlam ファイル)が存在しなくなった状態で[アドイン]ダイアログボックスを開き、登録を解除したいアドインをクリックします。  
実行すると「アドインが見つかりません。リストから削除しますか?」という確認が表示されます。  
ここで[はい]ボタンをクリックすると、アドインの登録が解除されて[アドイン]ダイアログボックスのリストから消去されます。

## 4 動作環境

•Excel97～2003, Excel2010, Excel2013(32bit 版,64bit 版), Excel2016, Excel2019(Office365 MS(16.0.11328.20220) 32bit にて確認)

## 5 使用条件

このプログラムはフリーウェアです。著作権は、toowaki が持ちます。  
転載は自由に行ってください。また、当ソフト添付のアドインの改ざん・変更等を行わないようお願いいたします。

## 6 免責

このプログラムを使用して生じた損害等につきましては、作者はいっさい関与しません。  
使用者の責任で、本プログラムを使用してください。

## 7 連絡先

何かご要望等ございましたら、[toowaki.fc2@gmail.com](mailto:toowaki.fc2@gmail.com) までメールお願いします。

## 8 履歴

日付	内容	Ver.
2015/01/31	新規作成	1.0
2015/02/05	Excel2003 以前のバージョンで動作するように修正	1.1
2015/02/22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「スペルと文章のチェック機能」を追加</li> <li>・ショートカットメニューに表示される位置を一番上に変更</li> </ul>	1.2
2015/04/02	<ul style="list-style-type: none"> <li>■スペルと文書のチェック機能</li> <li>・64bit 版の Excel に対応。64bit 版の Excel に対応するためにプログレスバーを自作のものにかえた</li> <li>・非表示シートがある場合、非表示シートに対してもチェックするかを聞くようにした</li> <li>・外部ドライブにあるファイルに対しても実行できるようにした</li> <li>・ボタンの最初のフォーカスを「指摘のみ表示」になるようにした</li> <li>・結果の保存場所を選択できるようにした</li> <li>■行の高さ自動調整機能</li> <li>・印刷用の行の高さ調整機能を「メイリオ」、「Meiryo UI」フォントに対して対応した。また、その他マイナーなフォントにも対応した</li> <li>・高速化のため数字のみのセルは標準の高さ調整のみ行うようにした</li> </ul>	1.3
2015/04/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>■行の高さ自動調整機能</li> <li>・Excel2013 以降は行の高さが特殊な「メイリオ」フォントなど以外は表示と印刷が一致しており、Excel2013 以降とそれ以前で印刷用の動作を変えるようにした。</li> <li>・Excel2013 のみで稀に極度に処理速度が遅くなる現象が発生していたため、ウィンドウを最小化して回避する修正を行った。</li> </ul>	1.4
2015/04/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>■行の高さ自動調整機能</li> <li>・行番号上でも右クリックメニューに「行の高さを自動調整」が表示されるようにした</li> <li>・Excel2013 にて印刷用で実行した際にごく稀に文末が切れることがあり微調整を行った</li> <li>■列の幅調整機能</li> <li>・新規作成</li> <li>■スペルと文章のチェック機能</li> <li>・文書校正オプションの文書スタイルを選択できるようにした。</li> </ul>	1.5
2015/05/04	<ul style="list-style-type: none"> <li>■スペルと文章のチェック機能</li> <li>・非表示シートがあった際の動作を修正</li> </ul>	
2015/05/30	「NeconoteToolBox」を「NecnoteTools」に改名しました	1.6
2015/07/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表示を「ページレイアウト」にした場合に「行の高さ自動調整」機能を使用すると停止してしまう現象を改善した。</li> <li>・ショートカットキー「Ctrl + Shift + r」を押すと行の高さ自動調整の画面が表示されるようにした</li> </ul>	1.7
2015/10/31	<ul style="list-style-type: none"> <li>■行の高さ自動調整機能</li> <li>「印刷用」における高さ調整幅を Excel2013 とそれ以前で分けていましたが、それ以前の動作に統一した</li> </ul>	1.8
2015/08/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>■行の高さ自動調整機能</li> <li>・ショートカットの説明をユーザーフォームに追加した</li> <li>・結合セル内の列が多い場合の行の高さを調整した</li> </ul>	1.9
2016/08/28	<ul style="list-style-type: none"> <li>■行の高さ自動調整機能(全シート)</li> <li>選択している 1 ブックの全シートに対して行の高さの自動調整を行う機能を追加した</li> </ul>	2.0
2016/09/04	<ul style="list-style-type: none"> <li>■行の高さ自動調整機能</li> <li>自身の VBA で行の高さ自動調整(AutoFitRowEx)機能を使用したいという方のためにメッセージ</li> </ul>	2.1

	<p>を表示しない関数を用意した。アドインを設定した状態で下記を VBA で実行すると選択行に対して実行する。</p> <p>‘表示用 Application.Run “autoFitRowForDisplayNoMsg”</p> <p>‘印刷用 Application.Run “autoFitRowForPrintNoMsg”</p>	
2017/01/21	WindowsUpdate によりアドインが起動しなくなる原因とその解決方法を記載→ <a href="#">詳細はこちら</a> 。	
2017/05/20	<p>右クリックメニューの表示をコマンドバーによる設定からリボン UI による設定に変えた。</p> <p>Excel2007 以下に関してはこれまで通り。</p>	2.2
2017/09/24	<p>■スペルと文章のチェック機能</p> <p>Office2016 に対応した。</p> <p><del>Office2016 になって Microsoft Word の仕様が変更され詳細情報を取得できなくなったため、Excel2016 では日本語誤字がある箇所は「日本語誤字あり[左記参照]」のみ表示するようにしました。</del></p>	2.3
2017/10/29	共有ブックではシートが消せないため、共有ブック使用時は行・列の自動調整機能は使えないようにしました。	2.4
2018/03/17	<p>■スペルと文章のチェック機能</p> <p>MS Office をアップデートすることで Excel2016 でも日本語の指摘内容が表示されるようになったため Excel2016 でのウインドウ表示を修正しました。</p>	2.5
2018/05/19	<p>■行の高さ自動調整機能</p> <p>Office の Update により MS フォント(MS ゴシック、MS P ゴシック等)の印刷時の高さの仕様が変更されており、正しく印刷の高さに調整されなくなっていました。このため、印刷用で高さ調整を実行した際に MS フォントに関し行の高さに余裕をもたせ、全ての文字が切れずに印刷されるように調整しました。</p>	2.6
2019/4/7	全体メニューのショートカットキーを追加しました。ショートカットキーは「Ctrl + Alt + n」です。	2.7
2019/5/1	<p>■行の高さ自動調整機能</p> <p>「行の高さ限界を超えた場合超えたセルのみ結合」というチェックボックスを追加しました。</p>	2.8
2021/3/6	<p>■行の高さ自動調整機能</p> <p>前回バージョンまでは標準フォント未満のフォントサイズのセルに対して、標準フォントサイズで高さを調整するようになっていました。この点を修正し、標準フォントに関係なく対象のセルのフォントサイズに合わせて高さを調整するようにしました。</p>	3.0
2021/3/17	<p>■行の高さ自動調整機能</p> <p>V3.0 での修正で不具合が発生していたため修正しました。</p>	3.1